

あったが、普段あまり機会がない東ヨーロッパなどからの参加者による発表を聞けるなど、ヨーロッパで開かれた学会ならではの経験をすることが出来た。



レセプションの様子

ISMCR'02 の Web サイト :

<http://www.ensi-bourges.fr/ismcr2002/>

## ◆ CHI2002 参加報告

伊藤雄一

大阪大学

アメリカ合衆国においておよそ 160 年の歴史を持つ双子都市ミネアポリス(ミネソタ州)にて、4月20日から25日までの日程で、世界最大級のヒューマンインタフェースに関する国際会議 CHI2002 (Conference on Human Factors in Computing Systems) が開催された。会議期間中は雪が舞い、気温も低く、非常に寒かったのであるが、それとは対照的に、参加者の発表や議論は非常に活発で熱い会議であった。今年の参加者は 1,600 名ほどらしく、昨年より若干減ったそうであるが、世界各地からの参加が見られ、CHI という国際会議が全世界的に見ても非常にメジャーであり、国際色豊かな会議であることを示していた。今回、私は CHI には初めて参加させていただいた。この場をお借りして参加報告をしたいと思う。

会議のメインとなる Papers のセッションでは、今年は 409 件の投稿から採録された 61 件の論文が発表された(採択率 14.9%)。Papers は、常に 2 セッションが並列で発表され、他にも Short Talks の 2 セッション、Panel や Demo、Posters などといったセッションも同時進行で開催されるなど、会議スケジュールの密度が非常に濃く、多くの人が自分の興味のある発表を目指して、セッション中にも会議室間を急ぎ足で行き来する場面が見られた。また、Posters セッションの会場では中央に休憩のためのスペースも設けられ、その場を利用して発表者と直に議論をする姿も多く見受けられた(写真1)。



写真1 Poster セッションの様子

Papers の中で特に興味を引いた発表は、Two-Handed Interaction のセッションの Sony CSL の暦本氏による、両手操作を行う際に、いかにその両手をセンシングするかに関する発表であった。これは、今年のインタラクシオン 2002（情報処理学会主催）でも発表されたようであるが、グリッド状に銅線を張り巡らせ、縦軸方向に交流電流を流すと、横軸方向の銅線との交点の静電容量に比例した信号強度を得ることができることを利用したもので、手のような接地した導電物体が近づくと、その物体はそれぞれの銅線と静電結合し、信号強度が弱くなる。その信号を取得することで、どの位置にどのような形で手が存在するかを解析し、インタラクシオンに用いるというものである。静電容量の信号強度は手を近づけるだけで変化するので、タッチパネルのように画面に手を触れる必要はなく、どれくらい手が近づいているかという情報も静電容量の信号強度によって測定することができ、幅広いアプリケーションが考えられると感じた。

私も、大阪大学でこれまで研究してきた ActiveCube を用いて、カナダのアルバータ大学などと進めた認知能力評価のためのユーザインタフェースについての共同研究の結果を、Papers のセッションで発表させていただいた。初めての CHI 参加だったこともあり緊張したが、多くの方に聞いてもらえ、今後の励みにもなった（写真 2 参照）。



写真 2 Hands on Interface セッションの様子

Short Talks では、一つのセッションで 6 件の発表が行われるため、同じセッションでも多岐に渡る発表を聞くことができ、世界で行われている研究の傾向を知ることができる。その中で特に興味深かったのは Tangible

Interfaces のセッションで、おもしろい研究の発表が多かった。特に興味を持ったのは、ハーバード大学の Lertsithichai 氏による 3 次元形状モデリングのためのユーザインタフェースの発表であった。実空間のブロックの各面を引っ張り出すことで、ブロックの大きさを変化させることができ、その操作が仮想空間内のブロックに反映されるだけでなく、仮想空間内のブロックの大きさを変化させると、実空間に置かれたブロックの大きさも、各面に装備されたアクチュエータによって変化する。現状の実装ではアクチュエータの細かい制御は無理であったが（出ているか否かのみ）、将来的にこれをアナログ制御することで可能となると考えられる。また、ブロック同士の接続は今後の課題となっていたが、形状を構築する際の基本単位としてのブロックの完成度は高く、将来が楽しみな研究であった。

今回の CHI2002 は "changing the world, changing ourselves" というテーマで開催されており、実際に参加者の意識の中にもこのテーマの影響を如実に感じることができた。さらに世界の最先端のユーザインタフェースの研究に触れることができ、私自身にとって大きな実りを得ることができた。次回の CHI2003 はアメリカフロリダ州の Fort Lauderdale で 4 月 5 ～ 10 日という日程で開催される。機会があれば是非とも参加したいと考えている。

CHI2003 に関しては、<http://www.chi2003.org/> を参照のこと。